

<p>平成 29 年 7 月 31 日</p>	<h1>病虫害発生予報</h1> <h2>8 月号</h2>	<p>茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会</p>
-----------------------------	--------------------------------	--------------------------------

土壌くん蒸剤の施用時はしっかり被覆しましょう
～平成 29 年度茨城県農薬危害防止運動期間中(6/15～9/14)～

＜ 目 次 ＞

<h3>I. 今月の予報</h3>	
<p>【注意すべき病虫害】</p>	
<p> 水稻：いもち病（穂いもち），斑点米カメムシ類</p>	<p>1</p>
<p> ナシ：ナシヒメシンクイ（第四世代幼虫）</p>	<p>2</p>
<p> 【防除所レポート】：ナシヒメシンクイの防除適期の予測</p>	
<p> 果樹共通：チャバネアオカメムシ</p>	<p>3</p>
<p>【その他の病虫害】</p>	
<p> 水稻，大豆，サツマイモ，ナシ，ブドウ，秋冬ネギ，夏秋ナス，共通害虫</p>	<p>4</p>
<h3>II. 今月の気象予報</h3>	
<p>最新の農薬登録内容は，（独）農林水産消費安全技術センターホームページ 「農薬登録情報提供システム」（http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm）で 確認することができます。</p>	
<p style="text-align: center;">詳しくは，病虫害防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病虫害防除所 Tel：0299-45-8200 予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/ フェロモントラップデータ随時更新中</p>	

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（穂いもち）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、葉いもちの発病度[※]（本年値 1.1， 平年値 4.4）， 発生地点率（本年値 12%， 平年値 54%）はともに平年より低い。
- ② 気象予報によると、向こう 1 か月の日照時間は平年並か少なく、降水量は平年並と予想され、発生を助長する条件である。

※ 発病度：病斑をもとに算出した数値、最小値は 0 で最大値は 100 となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① いもち病菌がイネの穂に侵入しやすいのは、出穂直後から出穂後 14 日位までである。この期間に降雨が続く場合は、発生に注意が必要である。
- ② 穂いもちを対象とした液剤の散布適期は、穂ばらみ末期～穂揃期である。葉いもちが多発し、上位葉に病斑が進展している水田では、防除を徹底する。

2. 斑点米カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬現在、水田内における斑点米カメムシ類のすくい取り虫数（10 回振り）は平年より多く（本年値 1.0 頭， 平年値 0.3 頭）， 発生地点率は平年より高い（本年値 33%， 平年値 17%）。
- ② 7月下旬現在、有効積算温度から計算したクモヘリカメムシの産卵開始時期は平年より早い。また、高温条件下では産卵数が増加する。

[防除上注意すべき事項]

- ① 成虫を対象とした防除適期は、穂揃期である。穂揃期に成虫を確認した場合は防除を実施する。
- ② 幼虫を対象とした防除適期は、出穂 10～15 日後頃（乳熟期）である。斑点米の発生防止には、この時期の幼虫密度を低下させることが重要であり、乳熟期以降の幼虫密度が高いと斑点米の発生量が多くなる。
- ③ すでに空中散布などで防除を実施した水田であっても、その後幼虫がふ化したり新成虫が再飛来したりするので、発生を認めた場合は追加防除を実施する。
- ④ ミツバチ被害軽減のため、ミツバチの活動が最も盛んな時間帯（午前8時～12時まで）の農薬の散布をさける。
- ⑤ 収穫の遅い水田では、8月中旬以降に新成虫の飛来により密度が高まることがあるので注意する。

(水稻 続き)

- ⑥ 防除の際には、薬剤の使用基準に定められた収穫前日数を遵守する。また、周辺（特に早生品種を作付している水田がある場合）への飛散に注意する。

ナシ

1. ナシヒメシンクイ(第四世代幼虫)

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬までのフェロモントラップへの第二世代成虫の総誘殺数は、地区予察圃（かすみがうら市、小美玉市、笠間市）および土浦市で平年並、地区予察圃（石岡市）で平年よりやや少ない。
- ② 7月下旬現在、被害果率（本年値 0%，平年値 0.003%）は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 被害果を見つけた場合は、土中深く埋める等速やかに処分し、成虫の発生を防ぐ。
- ② 早生品種（「幸水」等）で被害が認められた場合は、中生～晩生品種（「豊水」や「新高」等）で被害が多くなる傾向があるので注意する。
- ③ 薬剤は、10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。
- ④ 薬剤防除の際には、収穫前日数等に十分注意する。
- ⑤ 薬剤散布の時期については、下記の防除所レポートを参考にする。

防除所レポート【ナシヒメシンクイの防除適期の予測】

- ① ナシヒメシンクイ第四世代幼虫を対象とした防除適期は、**第三世代成虫の誘殺数がピークに達した日の直後(1～2日後)**である。
- ② 各地点の第三世代成虫の誘殺最盛期は、第二世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と発育に有効な気温の積算値から予測した。
- ③ 表中のかすみがうら市、土浦市、筑西市(旧下館市)については、今後、病害虫防除所ホームページで情報を随時更新するので参考にする。

※薬剤防除の際には、収穫前日数等に十分注意する。

表 調査圃場におけるナシヒメシンクイ第四世代幼虫の予測防除適期

地点	予測防除適期 ¹⁾
笠間市(旧友部町)	8月 9日 ～ 8月 13日
石岡市	8月 3日 ～ 8月 8日
かすみがうら市	7月 30日 ～ 8月 3日
土浦市	8月 8日 ～ 8月 12日
筑西市(旧下館市)	8月 3日 ～ 8月 8日

1) 予測した第三世代成虫の誘殺ピークの1～2日後とした。

果樹共通

1. チャバネアオカメムシ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや少ない	県下全域

[予報の根拠]

- ① 7月下旬までの果樹園に設置した予察灯への総誘殺数は、かすみがうら市で平年よりやや少ない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 果樹園内でカメムシ類を確認した場合は、活動の鈍い早朝に薬剤防除を行う。
- ② 薬剤防除の際には、収穫前日数等に十分注意する。
- ③ 7月下旬現在、一部圃場のナシ果実において、種は特定できないがカメムシ類によるとみられる吸汁被害を認めたので注意する。
- ④ 今後、果実が肥大するカキやリンゴの圃場では、カメムシ類が飛来する恐れがあるので注意する。

大豆「里のほほえみ」におけるべと病の防除について

べと病の発病程度は品種による差が大きく、平成27年に認定品種に採用された「里のほほえみ」は、「タチナガハ」に比べて発病しやすい傾向にあります。圃場をよく観察して適期に薬剤防除を行い、子実への感染を防ぎましょう。

[べと病の特徴]

雨が多く多湿条件が長く続くときに多発し、主に葉に発生して子実にも感染します。

葉では、はじめ円形または不規則な形の黄白色の病斑ができ、病斑の裏面には綿毛のような灰色の菌そうが盛り上がります。発病が激しいと葉は萎凋して落ちます。子実では、種皮に亀裂を生じ、乳白色～黄褐色の菌糸でうすく覆われます。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病初期からの薬剤防除を徹底する。
- ② 種子や被害茎葉は翌年の第一次伝染源となるので、収穫後の被害残渣は適切に処分する。
- ③ 収穫調製を丁寧に行い、病粒を除去する。
- ④ 連作を避ける。
- ⑤ 密植を避け、風通しを良くする。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況および注意すべき事項
水稲	縞葉枯病	発生量：多い	7月下旬現在，平年より多い発生である。
	紋枯病	発生量：やや多い	7月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
大豆	紫斑病	発生量：－	防除適期は開花期の20日後頃である。開花期以降から成熟期までに連続した降雨があると，発生が多くなるので注意する。県内では，チオファネートメチル剤に対する耐性菌を確認しているため，それ以外の薬剤を使用する。
	カメムシ類	発生量：平年並 ～やや多い	7月下旬現在，予察灯（水戸市，笠間市）への誘殺数は平年並～やや多い。
	チョウ目幼虫		7月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
サツマイモ	ナカジロシタバ	発生量：平年並	7月下旬現在，平年並の発生である。
ナシ	黒星病	発生量：平年並 ～やや少ない	7月下旬現在，平年並～やや少ない発生である。
	ハダニ類	発生量：やや多い	7月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
ブドウ	褐斑病	発生量：平年並	7月下旬現在，平年並の発生である。
秋冬ネギ	ネギアザミウマ	発生量：多い	7月下旬現在，夏ネギにおいて平年より多い発生である。
	ネギハモグリバエ	発生量：やや多い	7月下旬現在，夏ネギにおいて平年よりやや多い発生である。
夏秋ナス	アザミウマ類	発生量：平年並 ～やや少ない	7月下旬現在，平年並～やや少ない発生である。一部圃場でミナミキイロアザミウマの被害果が発生している。
共通害虫	オオタバコガ	発生量：平年並 ～やや多い	7月下旬現在，直近1か月間（6月第6半旬～7月第5半旬）のオオタバコガの誘殺数は，龍ヶ崎市および筑西市で平年よりやや多く，土浦市で平年並である。大豆および夏秋ナスの一部圃場で発生を確認している。
	ハスモンヨトウ	発生量：平年並	7月下旬現在，フェロモントラップへの総誘殺数は，龍ヶ崎市で平年よりやや多く，鉾田市で平年並，土浦市で平年よりやや少なく，筑西市で平年より少ない。

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 7月29日から8月28日)

気象庁(7月28日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	20	50	30
	降水量	関東甲信全域	30	40	30
	日照時間	関東甲信全域	40	40	20

[概要]

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

<1週目の予報> 7月29日(土曜日)から8月4日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率50%

<2週目の予報> 8月5日(土曜日)から8月11日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率50%

<3週目から4週目の予報> 8月12日(土曜日)から8月25日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並か平年より高い確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、異なる作用機構分類^{*}(FRACコード、IRACコード)の薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(平成29年4月27日発表)の防除所レポート参照

- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。